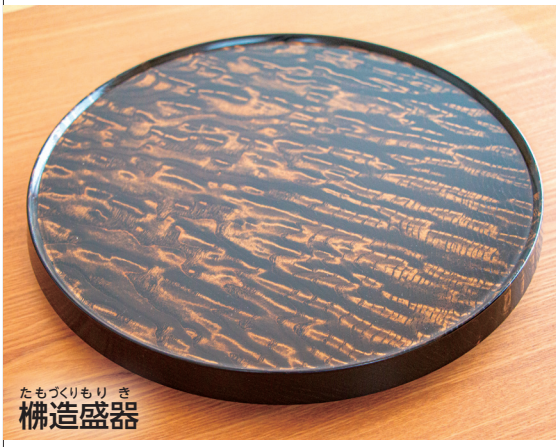
広報富士見
令和4年8月号
No.983
(毎月1日発行)
発行 富士見市 編集 総務部秘書広報課
☎049-251-2711 〒354-8511 富士見市大字鶴馬1800番地の1

栃造食籠（とちづくりじきろう）
第60回東日本伝統工芸展東京都知事賞受賞作品



栂造盛器（たもづくりもりき）

今月のFujimist

玉井 智昭 さん（木工芸 挽物轆轤（ひきものろくろ））

問 秘書広報課 ☎049-256-9535

漆器は日本の代表的な伝統工芸の1つで、古くは奈良時代に製作された漆器が正倉院の宝物として残されている。また、漆器は英語で「ジャパン」とも呼ばれるなど、世界でも日本固有の工芸品として知られる。市内の工房で漆器を製作する玉井智昭さんは、令和2年に第60回東日本伝統工芸展東京都知事賞と第67回日本伝統工芸展日本工芸会会長賞を受賞した、洗練された技術を持つ工芸家だ。

以前は建設コンサルタント会社で橋梁（きょうりょう）のデザインに従事してきたが、「デザインから仕上げまですべて自分が手掛けたい」という想いから、以前からその奥深さに魅せられていた漆器製作の道に足を踏み入れた。

デザイナーと工芸家。「モノづくり」という共通項はあるものの、身を立てられる保証はない。家族や上司の反対は少なからずあったが、漆器づくりへの情熱を諦めることができず、意を決して石川県の山中漆器産業技術センターの門を叩（たた）いたのは28歳のころ。センターで基礎的な技術を学びつつ、工芸家として名高い辻英芳（つじえいほう）氏に師事した。

玉井さんが追及するのは、自然界からの恵である木材と漆への感謝の気持ちを忘れることなく、唯一無二の「木目」とその木目を際立たせるための塗り「拭漆（ふきうるし）」、そしてデザイナーの経験に裏打ちされた「曲線美」が織りなす美しい作品。特に展覧会に出品する作品は、木材の選定から乾燥などを経て、仕上がるまでに数年を要する。「工芸家として独立して約20年。自分の作品に満足したことはまだありません。轆轤を使うと造形は基本的に回転体のものしか作れず個性を出すことが難しいですが、私にしか生み出せない作品を1つでも多く作りたいと思っています」。

10月に栃木県で開催を予定している個展に向けて、全力で製作に励んでいる。会心の作品ができるまで、玉井さんはその手を止めることはない。

■市公式ホームページ

■SNS

【カタログポケット】広報『富士見』を多言語で

【マチイロ】広報『富士見』をスマートフォンで

【テレ玉データ放送】テレ玉(地デジ3ch)視聴中にdボタンで市の情報を視聴

人口と世帯数(7月1日現在)

人　口…112,972人(前月比 +104人)
(男 55,470人　女 57,502人)
世帯数…54,318世帯(前月比 +63世帯)

広報『富士見』は、市内の公共施設や駅などにも置いています。声の広報『富士見』(音声DAISY(デイジー版)は市内図書館で貸し出しています(市ホームページで聴くこともできます)。

VEGETABLE OIL INK
古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
UD FONT by MORISAWA

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を
12 つくる責任 つかう責任
15 陸の豊かさも守ろう

富士見市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。